

新型コロナウイルス過の剣道価値と普及への取り組み

～中四国大学生剣道部員を対象に～

1210547 宮田紘輔

高知工科大学 経済・マネジメント学群

1. 概要

2019年12月に発生し、世界中で流行した新型コロナウイルス（COVID-19、以下新型コロナウイルス）によって世界中が混乱し、2020年開催を目指していた東京オリンピックが延期になったことを筆頭に多くのスポーツ大会が中止・延期になり、剣道の大会においてもほとんどが中止になった。

本研究では、現役剣士の考えるコロナ過における剣道の価値と普及を続けるための方策を検討し、今後の課題解決に繋げていくことを目的とする。

2. 背景

現在、日本の剣道人口は大幅に減少していないものの初段合格者数は年々減少傾向にあり、この結果から新規剣道人口の減少に繋がっていることがわかる（表1）。

表1. 初段合格者と13歳人口の推移

年度	初段	13歳人口
平成元年	6.2	183
平成29年	3.6	111
平成30年	3.3	106
令和元年	3	109

全日本剣道連盟ホームページ「《基本計画》次世代への継承に向けて」より抜粋

新規剣道人口減少問題に加え、今年世界中で大流行しWHOがパンデミックと評した新型コロナウイルスの影響により多くのスポーツが実施できなくなるなど、競技人口の減少に追い打ちをかけられている状況になっている。

剣道を介しての新型コロナウイルス感染実例として、2020年4月7日に愛知県警の剣道特別訓練員の間で新型コロナウイルスが蔓延しクラスターと認定された。換気が不十分な中で密接して練習を行ったことが原因と言われており、このニュースによって剣道は飛沫感染しやすいスポーツのひとつと

して認識されるようになった。

また、剣道は気剣体の一致、つまり剣道において勝利条件となる一本取得における必須条件である「気：気力・掛け声、剣：竹刀・技、体：姿勢」の3つが一致することで成り立つ競技である。そのため、新型コロナウイルス禍においても、特性上マスク着用が必須となる。一般的に新型コロナウイルス禍において至近距離の会話・声だしがタブーとされているものの、剣道では、気剣体の「気」の部分で掛け声が必要になるため、競技中もマスク着用が必須条件ということになっている。これにより、現役剣士に対するマスクによる呼吸困難などの練習への負担増加や制約条件の増加が懸念されている。実際に剣道連盟は具体的な対策として、向かい合わせを極力避け、やむなく向かい合わせになる場合には2mの距離をとり、発声も極力控えることを前提とし、稽古を行う者は、飛沫の飛散防止のため、必ずマスクを着用し、シールドを着用することを強く推奨している。また、道着・袴・防具着脱時の更衣室の密集を避けることも挙げられている（全日本剣道連盟 対人稽古再開に向けた感染拡大予防ガイドラインより抜粋）。

次に、新型コロナウイルスによって受けた剣道関係の実害を見てみると、世代を問わずに多くの公式大会が中止または延期になっていることがわかる（表2）。私自身、新型コロナウイルスの影響によって大学生生活最後の公式大会すべてが中止となり怒りと悔しさがこみあげた。また、新型コロナウイルス過を経験することでこのまま剣道を行うことは正しいのだろうか、何か改善策を考えなければ新規剣士を獲得することが難しくなり、日本の伝統文化である剣道が衰退してしまうのではないかという疑問も生まれた。

表 2. 新型コロナウイルスの影響によって中止になった主な大会

＜中止になった大会名＞	
○成人の部（大学生を含む）	
第68回全日本学生剣道選手権大会	
第54回全日本女子学生剣道選手権大会	
第67回全日本学生剣道東西対抗試合	
第14回全日本女子学生剣道東西対抗試合	
○高校生の部	
第68回全日本学生剣道優勝大会	
第39回全日本女子学生剣道優勝大会	
第67回全国高等学校剣道大会	
第91回玉竜旗高校剣道大会	
○中学生の部	
第50回中学校剣道大会	
第55回少年玉竜旗争奪剣道大会	

全日本剣道連盟ホームページ 大会一覧表より

以上のことから、本研究は新型コロナウイルスによって影響を受けた現役大学剣道部員に着目する。新型コロナウイルスによって影響を受けた現役剣士の剣道に対する価値観の変化と、今回の経験を活かした今後の剣道普及策を検討することを目的とする。

3. 目的

本研究の目的は、新型コロナウイルスによる影響を踏まえ、例えば、伝統文化である剣道の価値を維持し、普及を行い新しい剣士を獲得するために何を行っていくべきかを検討することである。

4. 研究方法

本研究では、現役剣士の剣道に対するイメージ変化等に関するアンケート調査を、高知工科大学含む中四国大学9校の剣道部員を対象に行った。

また、月刊誌における新型コロナウイルス対策に関する文献調査を行った。調査内容は以下のとおりである。

4-1. 調査内容

A. アンケート調査

日時：2020年9月16日～同年10月4日

対象：中国・四国地方に在る大学9校の剣道部に所属している部員 計74名

方法：Google forms を使用してのオンラインアンケート

2. 質問項目

①個人的特性項目

（性別、大学名、学年、剣道競技歴）

②剣道へのイメージは、新型コロナウイルス発生以降どう変化したか（選択式）

③②において選択した回答の理由

④剣道にどのような価値を感じていますか。例：礼儀作法や日本の精神を学ぶことができること。

⑤日本古来の文化である武道の価値を新型コロナウイルス以降にどう守っていくべきであると考えますか。

⑥新型コロナウイルス過において悪いイメージを持たれていることを前提とし、剣道を幅広い年齢層に普及するには何をすべきであると考えますか。

B. 文献調査

日時：2020年12月10日～同年12月30日

対象：月刊誌「剣道日本」

2020年7月号から2021年1月号まで

方法：新型コロナウイルスに関する記事の抜粋、内容分析

5. 調査結果

5-1. 個人的特性

①性別、学年、剣道競技歴

男性46名で62.2%、女性28名で37.8%となり男性が6割を占める結果となった（図1）。

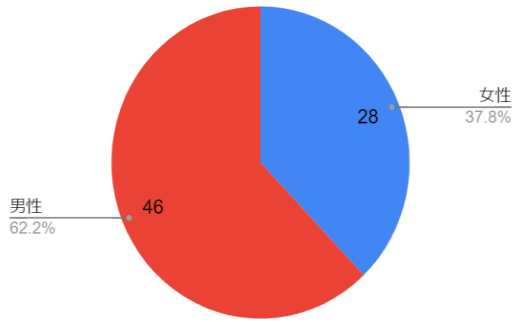


図 1. 性別

学年は、1年生 24名・2年生 26名・3年生 17名・4年生 7名となり 1・2年生で半数を占める結果となった（図 2）。

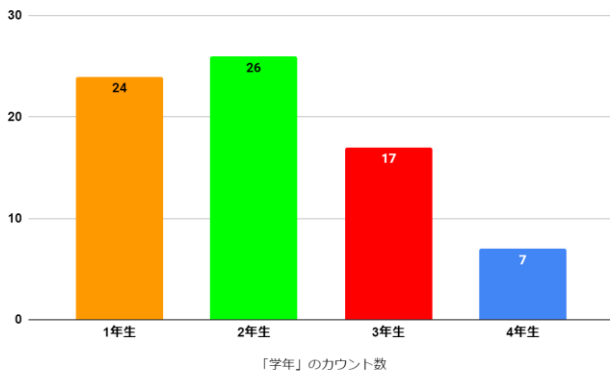


図 2. 学年

剣道競技歴については、大学生になると剣道歴が長くなり、最短でも 7 年間剣道をしてきており、最長では 17 年間続けてきているものもいた。平均値は 11 年間で、最も人数の多かったのは 12 年間という結果だった（図 3）。

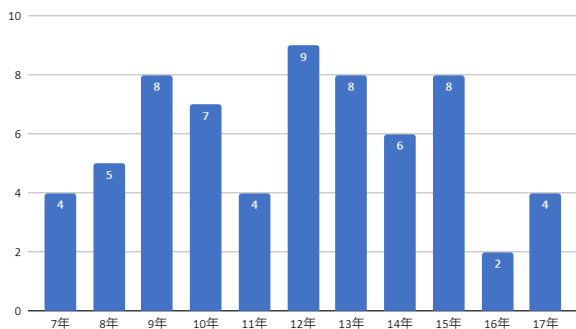


図 3. 剣道競技歴

次に、新型コロナウイルスによる剣道へのイメージ変化に関する調査を行った。

②剣道へのイメージは、新型コロナウイルス発生以降どう変化したのか。

イメージ変化については、「ある（良い）」「ある（悪い）」「変わらない」の三択で、「ある（悪い）」が最も多い結果となった。

また、全体でみても「ある（悪い）」の回答が半数以上を占めている。この結果により多くの人が新型コロナウイルスで剣道のイメージを悪化させたことが分かった（図 4）。

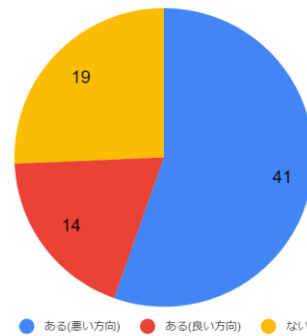


図 4. イメージ変化

③ ②の理由

「新型コロナウイルスによって剣道へのイメージに変化はあったか。」という問いに対する回答理由は以下の通りである。悪いイメージがある理由としては「競技特性上ソーシャルディスタンスを保つことが難しく感染リスクが高まるため」が最も多い結果となった。次に、ほぼ同率で「マスクなどの制約条件が厳しいため」と「公式試合と練習試合が中止になったため」が多い結果となった。関連して試合中止や以前と同じような練習ができないことによるモチベーションの低下が挙げられた。少数意見となった良いイメージがある理由としては、「これまで部活によって縛られていた時間をほかのことに使う余裕ができたため」、「自主トレーニングによって自分に足りないところを重点的に鍛えることができるようになったため」など剣道だけでなく視野を広げたいというポジティブな考え方をしている者が多く見られた（表 3）。

表 3. イメージ変化に対しての理由

ソーシャルディスタンス（三密）等規制の追加	29
マスクなどの条件が厳しいから	11
試合と練習の中止	10
なし	7
モチベーションの低下	4
時間に余裕ができた、自主トレ等	3
運営の判断が遅い	2
制限が多い	2
対策すれば問題ない	2
競技特性	1
クラスター	1
世間が悪いイメージを持つから	1
ルールを守らない人がいるから	1

④剣道にどのような価値を感じていますか。

この質問に対する回答は、主に精神的需要と日本文化要素を含んだものが多くあった。特に、「武道である剣道によって礼儀作法を学ぶことができる」という回答が最も多かった。

(表 4)。

表 4. 剣道価値

礼儀作法	27
精神力	8
人間形成	8
心身ともに鍛えられる	6
面白い	3
対人競技	3
感謝する心	2
敬意を学べる	2
交友関係を深める	2
チームワーク	2
日本文化を学べる	2
忍耐力	2
広い年齢層の繋がり	2
継続力	1
人生	1

組織の在り方を学べる	1
なし	1
日常生活に活かせる	1

⑤日本古来の文化である武道の価値を新型コロナウイルス以降にどう守っていくべきであると考えますか。

武道価値を守っていくために必要なことについての質問に対して最も多かった意見は、「練習や試合をするにあたっての基準やルールを定め、世間から見ても安全と分かるように対策を行う」という回答だった。次に「武道としての価値を損なわずに、これまでの考えや習慣を変えていくべき。」という回答が多い結果となった(表 5)。

表 5. 武道価値保全に向けての対応案

基準を決め対策する	21
なし・わからない	10
考え・慣習を変えていくべき	8
今まで通り	8
価値を普及する	7
SNS	5
現剣道人口減を防ぐ	4
武道体験	2
代替試合	2
高い志をもつ	2
ワクチンができるのを待つ	1
戦争後の普及活動を参考にする	1
競技者が人間として成長する	1
若者が次世代に伝えていく	1
革新的なアイデア	1

⑥新型コロナウイルス過において悪いイメージを持たれていることを前提とし、剣道を幅広い年齢層に普及するには何をすべきであると考えますか。

表 7 は、新型コロナウイルスで悪い影響を受けたことを前提に、剣道を普及するための案に関する結果をまとめたものである。その中で、「メディアを使ってアピールする」という

回答が最も多かった。内容としては、地方のテレビ番組で、感染症対策をしたうえでその地域の剣道クラブの活動を紹介することや、幼少期には社会性を身につけられることに重きを置いて、高齢期には健康的な体作りに繋がることを広め、どの年代においても利点がある事を伝えることなどが挙げられた。また、少数意見ではあったが「鬼滅の刃」や「ONEPIECE」、「るろうに剣心」など日本が世界に誇る漫画文化の中で、「剣道・剣術を扱っている漫画やアニメを使い若い世代や外国にアピールしていく」という回答も得られた(表6)。

表6. 剣道普及に関する具体案

メディアを使ってアピール	20
基準を決め対策する	15
なし	6
良さをアピール	6
SNS	6
地元の活性化	4
剣道をする機会をもっと設ける	3
コロナ収束を待つ	2
剣道や剣術を使うアニメや漫画を使い若い人たちにアピールする	2
昔からの剣道のマイナス部分の対策	2
幅広い年代ができることをアピール	2
イベントを開催	1
悪いイメージはない	1
厳しい	1
現役が頑張る	1
初心者向けの情報から発信	1
他人の楽しいを引き出す努力をする	1

B. 文献調査結果

月刊誌「剣道日本」の2020年7月号から2021年1月号の新型コロナウイルスに関する記事の抜粋と、内容分析を行った。新型コロナウイルスに言及した記事は全部で44記事あり

(全体175記事)、抜粋記事の主な内容は以下の通りである(表8)。

表8. 月刊誌「剣道日本」における新型コロナウイルスに関する記事内容のまとめ

<p>○2020年7月号</p> <p>4月7日に7都府県に発令され、4月16日に対象を全国に拡大した緊急事態宣言により対人稽古が、できなくなってしまった状況に柔軟に対応するための具体案と、大会中止になったことに対する学生の本音と決意が書かれていた。</p> <p>・武道・武術で大事にされてきた”静”を見直そうという提案</p> <p>・インターハイ、初の中止 高校剣士の一大目標が消えて…</p> <p>(2020年7月号 特集①剣士たちの“いま”)</p>
<p>○2020年8月号</p> <p>本研究でも実施したアンケート調査を「剣道日本」の読者を対象に行われていた。幅広い年齢層にアンケートをしているので本研究で行ったアンケートでは判明しなかった世代ごとの価値観を知ることができた。</p> <p>・剣日アンケート調査 コロナ禍で考える現在と未来</p> <p>(2020年8月号 特集2 できる稽古を求めて)</p>
<p>○2020年9月号</p> <p>全日本剣道連盟が定めた新型コロナウイルスに対して細かく記されているガイドラインを、少年少女剣士に向けて表現を分かりやすく掲載されていた。</p> <p>・「子ども剣道ガイドライン」を読んで剣道再スタート!</p> <p>(2020年9月号 特集2 できる稽古を求めて)</p>
<p>○2020年10月号</p> <p>公益財団法人全国高等学校体育連盟の主催事業であるインターハイ中止を決定した最終的な3つの理由と中止になったことによる弊害を全国高等学校体育連盟専務理事の奈良隆氏にインタビューを行った内容であった。</p> <p>・インターハイ中止決定の経緯と主催者の思い「この戦いを人生の糧に」</p> <p>(2020年10月号 全国高等学校体育連盟専務理事 奈良隆インタビュー)</p>

○2020年11月号

高校生の剣道大会はあくまでも学校教育の一環としての部活動で、学校が再開し部活動、次に大会という順番で行うべきであるとされ、それに準じた形で、新型コロナウイルスの感染防止対策を全日本剣道連盟、茨城県剣道連盟の指針、茨城県教育委員会の指針を基にして対策案を考えて大会を開催したことが分かった。

また、開催したことで見えてきたことは、新型コロナウイルスの影響で、世の中も、学校教育も大きく変わり、剣道界も変わる必要があり、乗り遅れると剣道人口減少に拍車をかけることになるので剣道の古い様式は大事にしながらも新しい変化を受け入れ新しい剣道大会様式を考える必要があるとあった。

・「新しい剣道様式」大会へのモデルケース

(2020年11月号 高体連剣道専門部部长 橋正宏 インタビュー)

○2020年12月号

① 直接剣を交えないオンライン指導の実践内容について掲載されていた。新型コロナウイルス以前から海外にいる剣道家にオンライン指導を考えており、体験後文字や言葉に視覚的要素が加われば、伝えたいことをより明確に伝えることができることが分かった。また、新型コロナウイルスによって道場に通っていたが困難になった人や面識がないが剣道を学びたいという意欲がある人を加えて zoom による剣道専門のオンラインサロンが開かれ、通常では 10~20 名ほどで集まり稽古をするところをオンラインにすることで海外や日本の遠方に住んでいる人が参加することが可能となった。

オンラインサロン会員内容としては、動画及びコラムを週に1度、サロン内交流・ディスカッション、ライブ配信、定期研修会(=実践稽古会)への招待、個別の質疑応答動画指導が主になる。

これを活かすことができると、剣道文化をより分かりやすく簡単に海外に広めていくことが可能になることが分かった。

・「理論と実践」という尚道館の原点に還れた道場でのオンライン指導

② 芸能人剣道愛好家が YouTube で稽古や昇段、剣道具選

びなど様々な視点からの配信を行っていることが分かった。

まず初めのチャンネル名は、「剣道まっくら！」で剣道人口減少対策として剣道の魅力を伝えていきたいという目的で開設された。

次のチャンネルは、「ゴリ剣道チャンネル」で、テレビ番組を筆頭に世の中に剣道関連のコンテンツが少ないと感じ、剣道の選手が世の中にもっとリスペクトされてほしいという願いから剣道への恩返しをテーマに開設された。影響力のある芸能人が剣道を伝えることで普段剣道という競技に接点がない人でも知る可能性が高くなると考える。

・芸能人愛好家が YouTube で剣道愛を発信！

(2020年12月号 特集 剣道新規発見)

○2021年1月号

全日本剣道連盟が定めた新型コロナウイルスに対してのガイドラインに沿って10月18日に第70回宮前区剣道大会が実施されたことがまとめられていた。

・知恵を出し、思いを込めて大会決行！

(2021年1月号 特集 エピローグ 道しるべ)

以上に挙げた記事から、剣道における新型コロナウイルス対策についての内容分析を行った。2020年8月号の読者アンケートにおいて、本研究内容にもあった剣道の普及に重なる回答が多くあった。その中でも「今後の剣道界について」という質問に対しては、本研究を始めるきっかけとなった「剣道人口の更なる減少」という懸念ではなく、「もし来年オリンピックが開催されるのであれば、五輪競技に限らず海外メディアが日本を取り上げる機会も増え、文化といった側面からフォーカスした時に、外国人が食いつきやすい“剣”を扱っている武道であるため、国内外で今まで以上に関心を集めることができる。」という展望が描かれていた。

2020年9月号では、子どもに対してもわかりやすいガイドラインが掲載されていた。日本剣道連盟からもガイドラインが発行されているが、それを簡略化した内容が必要であるという内容であった。日本剣道連盟掲載のガイドラインに比べ、この剣道日本掲載のガイドラインは、感染防止のための特殊な面マスクのつけ方や防具に飛沫防止のためのシールドのつ

け方をイラスト付きで説明されており、理解しやすいものとなっている。

2020年10月号では、インターハイ中止の決め手となった3つの理由についてまとめられていた。3つの理由として、まず“移動”は、県をまたいでの移動や競技会場から宿舎への移動で感染リスクを高めてしまう危険性がある中で、対策が困難であるということがあった。次に“学校”が挙げられ、文科省から全国の学校に休業措置に関する通知文が出され、自治体によって長さに違いはあっても部活動ができない中で技術力や体力の低下による事故や怪我への懸念があることが要因とされた。

最後に“医療関連の逼迫”で、新型コロナウイルス以前から夏季インターハイにおいて全競技で救急搬送が三桁になることに加え、新型コロナウイルス禍による追い打ちで安心・安全を確保できない可能性があるかと判断された。中止になった弊害としては、大学へのスポーツ推薦など個人の人々の進路に影響を与えることなどが挙げられた。

2021年1月号には第70回宮前区剣道大会の詳細がまとめられており、無観客状態に加え、全員マスク着用で会場入りの際には消毒を行うことが徹底されていた。試合内容としては、新型コロナウイルス以前と違う試合形式になっており、竹刀をお互いに合わせ相手と距離が近くなる鏝迫り合いになった場合は速やかに審判が一定の距離を保たせ試合を再開すること、制限時間内に勝敗が決しなかった場合は、無制限の延長から一定時間の延長に変わり、それでも勝敗が決しなかった場合審判3人による判定形式に変更されていた。

これらをまとめると、最初に新型コロナウイルスが蔓延し始めた頃は、「すぐに沈静化されると思っていた」という意見が多数読者アンケートにもあったように初期の頃は文献内でも新型コロナウイルス関連記事は少なかった。時間の経過とともに新型コロナウイルス関連記事が増加し、緊急事態宣言後は2021年1月号までの全ての冊子に掲載されていた。内容に関しては、初めは剣道ができない状況に対して今は我慢という耐久型の記事が多かったが、後半は新型コロナウイルス禍でどう工夫して剣道を行っていくかの共存型に変化していた。また、対策でもポジティブな意見が多く変化した状況に柔軟に対応していく姿勢が見えた。

6. 考察

本研究の目的は、新型コロナウイルスによる影響を踏まえたうえで、伝統文化である剣道の価値を維持し、新しい剣士を獲得するために何を行っていくべきかを検討することであった。年々新規剣道人口が減少しており新型コロナウイルスによって更なる追い打ちをかけられた状態であることが最初の問題提起となっている。この問題を本研究で行ったアンケート調査と文献調査を基に考察し解決策を考えていく。

アンケート調査をまとめると、理由は様々ではあるが新型コロナウイルスによって剣道界に悪い影響を及ぼされたという意見が多く、これまで剣道ができることが当たり前だった状況が突然変わり戸惑いを隠せない人も多く見受けられた。このような理由から、アンケート調査結果の多くの回答にバラつきがみられず、偏りがあり、回答者が共通の認識や見解を持っていることが分かった。特に、その傾向が見られたのが質問②の「剣道へのイメージは、新型コロナウイルス発生以降どう変化したのか。」である。影響については悪化したという回答が多い中で、理由として「ソーシャルディスタンスを保つことが難しい」、「マスクをした状態で練習をしなければいけないなどの条件が厳しい」の2つで半数以上を占めたことが挙げられる。初めて経験する事態で内面的な部分ではなく新型コロナウイルスを通して目に見えて変わった部分の回答が多かった。

次に、質問⑤の「剣道にどのような価値を感じていますか。」については主に「礼儀作法を学ぶことができる」、「精神力を鍛えることができる」などの精神的需要と日本文化要素を含んだ理由が多くあった。私自身も両親に礼儀作法を学ぶことができるという理由で剣道を勧められた経験がある。剣道だけではなく、武道全般において礼儀作法が学べる事は一般的に認識されている可能性が高い。これに関しては、武道という点において精神的需要が高く、新規剣士獲得に強くつながっているものであり、評価されるべきものだが一方で、剣道そのものに対する魅力に対しての評価や技術力向上のためといった直接的な要因が少ないのではないだろうか。このことから、精神的需要と日本文化要素は世間に十分に認識されており、剣道そのものの魅力を積極的に伝えていく必要があるのではないだろうか。

また、回答の中で私が個人としても共感できると感じたの

が「広い年齢層のつながりができる」というものである。剣道は、高齢になっても継続することができるという点において、少子高齢化社会である現代においてアピールすることができるポイントであり、新型コロナウイルスが収束してからの幅広い年齢層に向けての普及に役立つものではないかと考える。

次に、質問⑥の「日本古来の文化である武道の価値を新型コロナウイルス以降にどう守っていくべきであると考えますか。」に対して最も多かった意見は、「練習や試合をするにあたっての基準やルールを定め、世間から見ても安全と分かるように対策を行う」という回答だったが、この意見は、普及するにあたって大前提であり練習再開前に対策してから次に移るべきであると考えているので、主に他の意見に関して考察を行った。

他の回答にあった、「武道としての価値を損なわずに、これまでの考えや慣習を変えていくべき」は実現することができれば、例えばこれまで否定されてきたオリンピックへの参入などにより本格的なスポーツ化にも繋がり、より幅広い年齢層や日本だけでなく世界に剣道を知ってもらい普及するきっかけになると考えられる。現在、世界的な剣道大会は3年に一度、国際剣道連盟主催で世界剣道選手権があるが、剣道経験者には認識されているものの一般人にはまだまだ認知されていないという状況である。そのためにも国際大会の代表格であるオリンピック参入は剣道界において革新的なものになる。「今までやって来たことを続けていけば大丈夫である。」という意見に関しても「武道としての価値を損なわずに、これまでの考えや慣習を変えていくべき。」と同じ回答数で、革新と保守の意見が並ぶ結果となった。

また、回答「なし」の部分は全てが初めての経験で自分自身が混乱しているため、次のことを考える余裕がないので分からないという理由が多く、人数も多くあったことが推察される。

質問⑦の「新型コロナウイルス過において悪いイメージを持たれていることを前提とし、剣道を幅広い年齢層に普及するには何をすべきであると考えますか。」に対しては「メディアを使ってアピールしていく」という回答が多くそれ以外にも「剣道の良さを伝えていく」など伝えていくことが重要であるといった回答が多かった。しかし、伝えていくとって

も現代では手段が多く、すべてに手を出そうとすると、かえって逆効果になることが考えられる。そこで、数ある手段から案を絞り比較しながら考察を行った。具体的には、スポーツを取り上げるバラエティ番組で剣道をピックアップしてもらい、入り口は、遊びでも良いので剣道とはどのようなものかを簡単に理解してもらうことが最善策ではないだろうか。テレビ番組以外では、SNSで剣道関連の動画を投稿し人気になることを狙い一気に知名度を上げ興味を持ってもらう案も想定される。全体としては若い世代には親しみがあり簡単に視聴することのできるYouTube等の動画配信サービスで試合を載せることも有効であるが、システム上剣道関連の動画を見るためには自ら検索をしなければならぬため未経験者まで届かないことも考えられ、まずは大衆が対象となっているテレビ番組を優先するべきであろう。

また、少数意見ではあったが剣を扱うアニメや漫画と関連付けて剣道をアピールする案もあった。特に近年の日本アニメの代表作となった「鬼滅の刃」は、大手回転寿司チェーン店とのコラボキャンペーンを展開することによって、さらに認知度を高めている。幅広い年齢層に人気があり、剣主体で描かれている漫画やアニメと、競技者の年齢層の幅が広く竹刀を扱う剣道を組み合わせることは有効だろう。

最後に現役生に対しての今後の状況改善策としては、大会開催に向けての取り組みとして、試合の開催・観戦がどちらも三密になることから、変更や対策が求められるため、待機場所や入場制限など運営が早めにガイドラインを示す必要がある。また、対人接触形式の試合や練習が難しくなっていくことが予想されるが、剣道の理念から外れない範囲で、練習・試合方法を変化していくことも考慮すべきである。

文献の内容分析においては、2020年8月号に関しては、新型コロナウイルスの影響を悲観することなくポジティブな意見が述べられており、2021年に開催予定の東京オリンピックでは剣道競技が採用されていないが、日本自体がフォーカスされることに合わせて日本文化である剣道をアピールしていくことは確実に普及に貢献すると考えられる。2020年9月号にあったガイドラインに関する記事もあったが、実際のガイドラインは文字ばかりで分かりづらい部分もあり、細かい部分には触れていないため、それぞれのとらえ方によって実施内容が異なる可能性がある。それに比べて剣道日本のような

機関誌が掲載しているガイドラインは、細かく注意してもらいたいところは赤文字や、赤線が引かれていて実施内容が統一されている。このガイドラインはもっと多くの人の目に触れるべきであろう。2020年12月号では、ひとつの道場をピックアップし、オンライン稽古会について書かれていたが、取り組みとしては実践稽古ができないものの、新型コロナウイルス対策にもなり距離が遠い人でも参加できることがメリットであり、貴重な経験を得ることができる機会を身内だけで行い、広めていないことがデメリットではないかと考えられる。現状はオンライン稽古会の情報を知っている人だけが参加している状態であるので、拡散力のある SNS や動画サイトを利用して今以上の多くの人に経験してもらい、剣道の輪を広げることによって価値を高めていくことが重要になってくるのではないだろうか。また、特に2021年1月号に掲載されている実際に新型コロナウイルス禍で実施した大会の活動報告は貴重なものであり、今後の大会実施に当たっての基準となるのではないかと考えられる。本大会で見つかった改善点を全日本剣道連盟が確認し、改めて公式が基準を設けることが少しでも早く全国規模の剣道大会実施に近づくのではないだろうか。

7. まとめ・提案

まとめとして、新型コロナウイルスによる影響を踏まえたうえで、伝統文化である剣道の価値を維持し、普及を行い、新規剣道人口増加を目指すためには、密接防止のための対策を公式に定めた中で、オリンピックなどの世界規模大会の参入・実施や日本文化の漫画やアニメを利用した剣道の知名度上昇と良さのアピールが必要である。

また、今回のアンケート結果では、各質問において現役学生剣士である多くの回答者が同意見である場合が多く、提示した問題が現状における剣士の解決すべき共通内容であることが分かった。

今後さらに剣道を広めるためには、いくつかの障壁も存在する。代表的なものは、オリンピック競技参入における武道価値問題がある。オリンピック参入により、知名度が上がり新規剣道人口増加が見込めるメリットがある一方で、日本古来の文化である武道としての特性が失われる可能性のあるデメリットも存在する。スポーツを通じた人間育成と世界平

和を究極の目的としているオリンピックにおいて、あくまでもスポーツではなく日本武道であるという剣道の本質では違いがあり、この問題については長期の時間が必要となるが、より一層の研究によって解決していくべきである。現段階では、剣道の文化価値維持と新規剣道人口増加には、剣道の本質としての理念は崩さずに柔軟に現状に対応した幅広い年齢層が理解できる対策を実行することが重要であろう。具体的には、メディアや SNS への露出を増やし、共通部分のあるデジタルコンテンツとの提携で認知度を増やししながら新型コロナウイルスによるマイナスイメージを払拭していくことが解決策として挙げられる。特に、テレビにおける露出の増加など、身近なところで無関心の状態からの知名度を上げ、徐々に剣道への興味を持ってもらうことが、日本文化としての価値を維持し続けることにつながるのではないだろうか。

8. 謝辞

本研究を進めるにあたり、アンケート調査に協力していただいた中四国各大学剣道部部員の皆様、お忙しい中ご指導ご鞭撻をいただいた担当教員である前田和範先生へ心より御礼申し上げます。

<参考・引用文献>

- ・毎日新聞 2020年4月8日付記事
「（剣道でクラスター 愛知県警で新型コロナウイルス感染拡大 掛け声で飛沫）」
<https://mainichi.jp/articles/20200408/k00/00m/040/195000c>
- ・全日本剣道連盟ホームページ
<https://www.kendo.or.jp/competition/>
<https://gakusei-kendo.com/>
- ・全日本剣道連盟ホームページ「(対人稽古再開に向けた感染拡大予防ガイドライン)」
https://www.kendo.or.jp/wp/wp-content/uploads/2020/06/guidelines_for_prevention_of_ex-pamded_infection.pdf

mpic/olympic/index.html

- ・全日本剣道連盟ホームページ

<https://www.kendo.or.jp/old/kendo/opinion.html>

- ・アニメ&ゲーム by ORICON NEWS (鬼滅の刃)

<https://www.oricon.co.jp/news/2181031/full/>

- ・アニメ&ゲーム by ORICON NEWS (one-piece)

www.oricon.co.jp/news/2158999/full/

- ・映画情報サイト ANEMO (るろうに剣心)

<https://www.anemo.co.jp/movienews/newmovie/rurouni-ken-shin-20190412/>

- ・食品産業新聞ニュース WEB

<https://www.ssn.jp/news/foodservice/2020/06/2020-0617-1114-15.html>

- ・剣道日本 2020 年 7 月号 発行会社 (株)剣道日本

- ・剣道日本 2020 年 8 月号 発行会社 (株)剣道日本

- ・剣道日本 2020 年 9 月号 発行会社 (株)剣道日本

- ・剣道日本 2020 年 10 月号 発行会社 (株)剣道日本

- ・剣道日本 2020 年 11 月号 発行会社 (株)剣道日本

- ・剣道日本 2020 年 12 月号 発行会社 (株)剣道日本

- ・剣道日本 2021 年 1 月号 発行会社 ((株)剣道日本

- ・新型コロナウイルス感染症対策の一事例

<https://youtu.be/iB5tYCHINcE>

- ・東京オリンピック・パラリンピック準備局

<https://www.2020games.metro.tokyo.lg.jp/taikaiyunbi/oly>

